

井関池 (いせきいけ)

位置図



諸元

貯水量	518 千m ³
満水面積	14.4 ha
集水面積	330 ha
受益面積	500 ha
堤高	14.8 m
堤長	309 m

全国有数のレタスなどの農業生産団地を形成する、豊かな実りを誇る観音寺市大野原町は、井関池が築かれ新田が開墾されるまで、想像もつかない荒地でした。ところが、「西嶋八兵衛」がこの広大な土地に着眼し、寛永 15 年(1638 年)に井関池の築造を開始し、これを引き継いだのが大野原開拓の父、豪商「平田与一左衛門」でした。讃岐の池史上でも珍しい近江商人の私財による銭持ち普請により、昼夜を分かたぬ 7 ヶ月の突貫工事により正保元年(1644 年)に完成しました。

完成半年後には決壊し、翌 3 月に復旧したものの 7 月には大雨で再び決壊、さらに慶安元年(1648 年)に 3 度目の決壊で、入植した農民は動揺し、逃げ出すものも出始めました。しかし、平田家やその仲間らの熱意により、承応 3 年(1654 年)3 月に修復されました。創築以来 10 年の年月をかけて、ようやく現在の井関池が完成し、観音寺市大野原町繁栄の礎となりました。

以来 350 年余、豊稔池や五郷ダム、井関池の余水を貯めておく小池の築造により用水は安定し、さらに昭和 50 年(1975 年)の香川用水通水によって水事情は大幅に改善されました。

また、現在井関池のほとりの五郷山とともに五郷山公園として整備され、4 月には桜が満開となり、5 月には、ツツジが堤防を彩り、まさに讃岐の農業地域を支える代表的なため池として、先人の血と汗が偲べれます。



ツツジの堤防



天然岩の洪水吐